

言い間違いに関する日本語母語話者間のフィードバックについて

川崎直子*

目次

1. はじめに
 2. 日本語母語話者の言い間違いについて
 3. 調査1：日本語母語話者の言い間違い
 3. 1. 調査方法
 3. 2. 日本語母語話者の言い間違いの実態
 4. 調査2：日本語母語話者間での言い間違いに対するフィードバック
 4. 1. 調査方法
 4. 2. 日本語母語話者によるフィードバックの概要
 4. 3. 日本語母語話者によるフィードバックの特徴
 5. まとめと今後の課題
-

1. はじめに

本稿は、日本語母語話者の言い間違いとその対応について調査したものである¹⁾。日本では、一昨年から所謂日本語ブームというものが起こり、テレビ番組等では日本語に関する多くの番組が放映されている²⁾。その傾向はインターネットでも顕著で、日本語の言い間違いを特集したサイトが数多く見られる。

* 南山大学大学院 人間文化研究科 言語科学専攻 言語習得領域 博士後期課程

1) 本稿は、2006年7月7日～9日に韓国韓南大学で開催された「韓国日本文化学会国際学術発表大会」の口頭発表での予稿集原稿を大幅に加筆修正したものである。

2) 北原保雄が『問題な日本語』(2005)を発表したことによって「日本語ブーム」が起こったとされる。

筆者は、非母語話者の言い間違いに対して提供される母語話者側のフィードバックに興味を持っている。フィードバックとは、発話相手の言い間違いに対して何らかの反応を示すことである。それは、あからさまに訂正する場合や婉曲的に訂正する場合、あるいは非言語による反応の示し方もある。最近のこうした日本語ブームの風潮から、言い間違いに関して行われる母語話者間での反応にも、非母語話者－母語話者間のフィードバックの提供方法に何らかの示唆があるのではないかと思い調査することにした。

最初に、非母語話者の誤用と母語話者の発話を収集したサイトで言い間違いの傾向を見た。次にその結果を元にして日本語母語話者にアンケート調査を行い、実際の使用場面でどのような言い間違いをするのか、また言い間違ったときに対話者がどのような対応を取るのかなど、母語話者の傾向を調査した。日本語母語話者同士の言い間違いの対応から、日本語教育の場において誤用に対する自然なフィードバックの形が何であるのか示唆が得られるのではないかと思われる。

2. 日本語母語話者の言い間違いについて

「言い間違い」とは、あわてたため、馴染みのない言葉のため、あるいは他人の言葉につられたためなど様々な理由で、発話に間違いが生じることを指す。また本稿で扱う「言い間違い」は、故意ではない発話の意図からの逸脱を指す。たとえば、笑いを取ろうと思ってわざと間違えることは「言い間違い」ではないとする寺尾(2002)の定義を用いることとする。

最初に母語話者がどのような言い間違いをするのか、言い間違いを特集しているインターネットの三つのサイトを選んで調査した³⁾。下記の表1は、母語話者による言い間違いの実例の一部である。これらの実例は、三つのサイトで共通する言い間違いとしてリスト化されていた語を筆者が選択したものである。

3) インターネットの言い間違いの特集に関しては、以下のサイトを参考にした。

『読売新聞 発言小町』

<http://www.yomiuri.co.jp/komachi/reader/200410/200410250030.htm> 2006年5月15日閲覧

『D Space』

<http://www.3.sspd.ne.jp/tokusyu/index.html> 2006年5月16日閲覧

『日本の標準』

<http://matsuri.site.ne.jp/taro/taro37.htm> 2006年5月18日閲覧

表1 言い間違いの例

| 正しい言い方 | 言い間違い | 正しい言い方 | 言い間違い |
|---------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| コミュニケーション (communication) | コミュニケーション | フィーチャーする (feature : 特集する) | フューチャーする (future : 将来) |
| 舌つづみ (舌鼓) | 舌づつみ | バッグ (bag : 鞆) | バック (back : 後方) |
| ホット・ドッグ (h- dog : 犬) | ホット・ドック (h- dock : 波止場) | ベッド (bed) | ベット (bet : 賭け) |
| ふんいき | ふいんき | 予行演習 | 予行練習 |
| カルボナーラ (carbonara : スパゲッ ティの種類) | カルボラーナ | アボカド (avocado : 果実) | アボガド |
| 布団を敷く | 布団をひく | ケージ (cage : カゴ) | ゲージ (gauge : 計測器) |
| 手持ち無沙汰 | 手持ちふたさ | おざなり (その場だけの間に合 わせ) | なおざり (おろそか) |
| じゅず (数珠) | ずじゅ | エキシビション (exhibition : 展覧、展示) | エキジビジョン |
| チャッカマン (ライターの商品名) | カッチャマン | 自転車 | じでんしゃ |
| 時期尚早 | 時期そうしょう | プロトコル (protocol : 手順、規約) | プロコトル |
| シミュレーション (simulation : 模範的) | シュミレーション | ビーチパラソル (beach- : 海岸) | ピーチパラソル (peach- : 桃) |
| 投げ遣り | 槍投げ | (写真の)焼き増し | 焼きまわし |

寺尾(2002)は、言い間違いを二つに分類している。

1. 話し手本人が、正しいと信じて発話しているもの

例：国名の「ナミビア」を「ナビミア」と信じて発話する

2. 「X」と言おうとしたのに、思わず「Y」と言ってしまうこと

例：長年の友人の「松下さん」を「松島さん」と呼んでしまう

母語話者の言い間違いは、言語処理の失敗であり、それを分析すれば正常な言

語処理過程を明らかにする上で役立つと言える。山根(2003)は、言い間違いには次のような種類があるとしている。

1. **先取り**

後に出てくる語の音を、前の語に「先取り」したもの。

- 例：(正)take my bike (誤)**b**ake my bike
(正)twenty-five percent (誤)twenty-**p**ive percent

2. **保続**

前の語の音がそのまま後続音に「保持」されたもの。

- 例：(正)pulled a trantrum (誤)pulled a **p**antrum
(正)You can tell Ken (誤)You can tell **T**en

3. **転換**

接頭音が相互に入れ替わること。

- 例：(正)Katz and Fodor (誤)**f**ats and **K**odar
(正)conquering kings (誤)**k**inquering **k**ongs

4. **語の置き換え**

意図していた語と違った語を言うことで、言おうとしていたことばと意味上、音韻上関係のある語に言い誤ることが多い。

次の例では、opensと言うつもりが意味の上で逆のclosesと言い誤っている。

- 例：(正)before the place opens (誤)before the place *closes*

5. **重音省略**

同じ音や調音上類似した音を抜かしてしまうこと。

- 例：(正)Post Toasties (誤)*P*osties
(正)mud puddle (誤)*m*uddle

また、母語話者の発話の言い間違いの多くには「舌つづみ(舌鼓)を打つ」を「舌つづみを打つ」、「カトラリー(食事前のナイフやフォークのこと)」を「カラトリー」、「しんきんかん(親近感)を「きんしんかん」といった、語の内部で子音が入れ替わる現象の「音位転倒」があることが明らかになっている(寺尾2003、河村2004)。

また最近では20歳代を中心に、「ふんいき(雰囲気)」を「ふいんき」と発話することが既出の「問題な日本語」として取り沙汰されているようである。しかし、同じ語で筆者が中部地区の小学校高学年(11~12歳)26人に調査したところ、「ふいんき」あるいは「ふういんき」と答える子どもが、全体の80%を占めた。小学校中学年以下(7~10歳)21人を対象にした調査では、「雰囲気」という語を聞いたことはあるが、実際には自分ではあまり使ったことがないという使用実態が明らかになった。そこで、実際の言語生活でこの語の使用が始まる11歳辺りから、音位転倒が始まっていると言えそうである。このことから、「雰囲気」に関しては20歳代の成人ではなく、もっと若い年代から「言い間違い」が起きていると言っても良さそうである。しかし音位転倒が起こった「さざんか(山茶花)」（もとは「さんざか」）、「あたらしい(新しい)」（もとは「あらたしい」）が現在では一般的に定着した形となっている経緯から、「ふいんき」についても今後注意深く見守っていく必要があると鳥飼(2005)は述べている。

3. 調査 1 : 日本語母語話者の言い間違い

3. 1. 調査方法

ネットの結果を踏まえて、日本語母語話者36人にアンケート調査を行った。アンケート協力者は、21歳から51歳までの女性20人、男性16人である。表1で挙げたリストから10語選んで問題とした。問題は「人間関係を円滑にするには、(コ○○○ケーション)が最も大切だ」のように、○の箇所を穴埋めする方式とした。4)正しい言い方と、通常自分が使用している言い方をそれぞれ書いてもらった結果が以下の表2である。

4) アンケート調査で作成した問題は以下である。

- ① 「人間関係を円滑にするには、(コ○○○ケーション)が最も大切だ」
- ② 「ネットでは(シ○○レーション)・ゲームが流行っている」
- ③ 「おいしい料理に(舌○○○)を打つ」
- ④ 「番組を(フーチャー)する」
- ⑤ 「何もすることがなくて、(手持ち○○さ)だなあ」
- ⑥ 「その場だけの間に合わせのことを、(○○○り)と言う」
- ⑦ 「手順のことを(プロ○○ル)と言うそうだ」
- ⑧ 「(ナ○○ア)共和国は、アフリカの南西部の砂漠の国である」
- ⑨ 「国際オリンピック委員会会長の名前は、(サ○○ンチ)氏だ」
- ⑩ 「勝利は心技体と呼ばれる、心と技と(か○○)の総合力によって得られる」

表2 調査の結果

| 対象語 | 正しい言い方の 正解率 (%) | 使用している言い方の 正解率 (%) |
|-----------------------|--------------------|-----------------------|
| コミュニケーション | 83.3 | 61.1 |
| シミュレーション | 33.3 | 27.8 |
| 舌つづみ | 77.8 | 25.0 |
| フィーチャー | 41.7 | 22.2 |
| 手持ち無沙汰 | 77.8 | 50.0 |
| おぎなり (その場だけの間に合わせ) | 83.3 | 47.2 |
| プロトコル | 91.7 | 88.9 |
| ナミビア | 63.4 | 38.9 |
| サマランチ | 94.4 | 94.4 |
| からだ | 100 | 100 |
| 全体 | 74.5% | 55.6% |

3. 2. 日本語母語話者の言い間違いの実態

10語の調査に関しては、総合的に正しい言い方については全体の74.5%が正解だったが、実際の正解の使用は55.6%にとどまった。本稿では、寺尾(2002)の母語話者の言い間違いの二分類である、(1)「話し手本人が正しいと信じて発話している」(2)「「X」と言おうとしたのに、思わず「Y」と言ってしまうこと」の二つに、項目をもうひとつ付加したい。既述の「コミュニケーション」「舌つづみ」「手持ち無沙汰」などの言い間違いに対して、新しく第三番目の項目として「正しい言い方「X」は知っているが、使用場面では思わず「Y」と言ってしまう」を付け加える必要があると思われる。

アンケートの最後に自由記述欄を設けて、調査協力者の意見を求めた。興味深い結果としては、「舌つづみ」や「手持ち無沙汰」などは、楽器の「鼓を打つ」からの連想で「舌づつみ」ではないと判断したり、「ごぶさた」からの連想で「手持ちぶたさ」ではなく「手持ちぶさた」だということは、時間をかけて正しい言い方を選んだり考えながら文字化したりする場合は正答が出せるが、実際の言語使用場面では「舌づつみ」や「手持ちぶたさ」と思わず口にすることが多いとしていたことである。

「シミュレーション」に関しては、英語での正しい綴りも思い浮かばないし、カタカナで書いても正しい言い方が分からないとする意見が半数以上を占めていた。日本語に

は「しみゅー」で始まる語より、たとえば「趣味」「手話」「主旨」など「しゅー」で始まる語の方が圧倒的に多いことから、「しみゅー」は極めて言いにくいとの意見が多かった。

「フィーチャー」という語は近年音楽用語等で聞かれるようになったが、正しい言い方の正解率は20～30代に多く、40代後半以上の協力者には空白の解答が多かった。この用語自体、一般的にまだ定着率が高くないことを示していると言えそうである。また、「おぎなり」と「なおざり」は、そもそも両語の使い分けがよく分からないとする意見も見られた。最後の問題の「からだ」は、子どもが「かだら」と音位転倒させる例として寺尾(2002)で挙がっていたが、成人では100%の正解率であった。

調査協力者に自由記述の欄で、寺尾(2002)の言い間違いの分類「自分で正しいと信じていたことばが間違っていた具体的な例」を書いてもらった。「大和(だいわ)証券」を「やまと証券」や「村さ来(むらさき)」を「むらさこ」などとする固有名詞の言い間違い、また「予行演習」を「予行練習」、「インストール」を「インストロール」や「インスツール」、「マックスバリュー(郊外型スーパー・マーケット)」を「バックスマリュー」と言うなどが挙がっていた。

その他の自由記述から明らかになったこととして、今まで自分が正しいと思っていた言い方が、パソコンで入力するときに初めて正しくないことが分かったとする意見が少数ではあるが見られた。具体的には、「その通り」と入力する場合、「とおり」とすると正しい漢字が得られず、「とおり」と入力して初めて正しい言い方が分かったとのことである。一方「被害を蒙る」は「こうむる」で、「こおむる」と入力すると正しい語が得られないとの意見も聞かれた。

4. 調査2：日本語母語話者間での言い間違いに対する フィードバック

4. 1. 調査方法

母語話者同士の接触場面では、親疎によっても言い間違いに対してフィードバックに差が生じるものである。そこで親疎関係を考慮して、母語話者間のフィードバックに違いがあるかどうかを調べることにした。本稿で用いられるフィードバックとは、話し手の発話の中に間違いがあると暗示的に、あるいは明示的聞き手が指摘する行為を指す(川崎2005)。また本調査での「親疎」の「親」とは、日常的な出会いが頻繁にあり、

心理的に距離感が狭い相手のことと限定した。たとえば家族、恋人、仲の良い友だち、アルバイト先の仲間、職場の同僚などである。また「疎」とは、日常的な出会いは頻繁にあるのだが、心理的に距離感を感じる相手のことと限定した。たとえば職場の上司、学校の先生、アルバイト先の上司、職場の先輩などである。

調査協力者は先の調査と同じ36人である。発話相手が言い間違った場合、(1)間違いを指摘して正しい言い方を明示的に提示する、(2)正しい言い方を暗示的に言う、(3)相手の間違いに自分も合わせる、(4)間違いには触れずに話題を続行させる、の4つのフィードバックタイプから「親」の場合と「疎」の場合を考慮して選択してもらった。問題は以下である。

Aさんは「黒酢」のことを、“こくず”だと思い込んでいるようだが、あなた(B)は、“くろず”という正しい単語を知っている。

フィードバックタイプ1

・間違いを指摘して正しい言い方を明示的に提示する

- A : こくずは、どこのメーカーが良いと思いますか。5)
B : “こくず”じゃないですよ。黒い酢と書いて、“くろず”です。

フィードバックタイプ2

・正しい言い方を暗示的に言う

- A : こくずは、どこのメーカーが良いと思いますか。
B : テレビでよく宣伝している“くろず”が良いって聞きましたよ。

フィードバックタイプ3

・相手の間違いに自分も合わせる

- A : こくずは、どこのメーカーが良いと思いますか。
B : “こくず”なら、中国直輸入のものが良いですよ。

5) 調査協力者への実際の問題用紙には、親疎の「親」の相手へのスピーチスタイルとして、普通体を用いた文末表現も提示した。

例【フィードバックタイプ1】

- A 「“こくず”は、どこのメーカーが良いかな」
B 「“こくず”は違うよ。黒い酢って書いて、“くろず”だよ」

フィードバックタイプ4

・ 間違いには触れずに話題を続行させる

A : こくずは、どこのメーカーが良いと思いますか。

B : ○社のものなら、量の割に値段も手ごろですよ。

4. 2. 日本語母語話者によるフィードバックの概要

36人の調査協力者にアンケートで答えてもらった結果が、以下の表3である。

表3 母語話者間の言い間違いに対するフィードバック(N=36)

| | 親 | 疎 |
|--------------|-------|-------|
| フィードバックタイプ 1 | 0.8% | 0% |
| フィードバックタイプ 2 | 50.0% | 36.1% |
| フィードバックタイプ 3 | 0.3% | 11.1% |
| フィードバックタイプ 4 | 38.9% | 52.8% |

「親」の関係の相手に対しては、フィードバックタイプ2が最も選好されるフィードバックである。質問の意図は通じるので敢えて間違いを正す必要もないけれど、正しい言い方をさり気なく発話の中に混ぜていることが好まれた理由であると思われる。発話相手が「疎」の関係の場合は、フィードバックタイプ4が一番多く選好されている。これは間違いには触れず、質問されたことにのみ答えるというフィードバックである。

また親疎ともに回避するフィードバックは、間違いを指摘しさらに正しい言い方を提示するフィードバックタイプ1である。これは問題自体が日常レベルの話題であるため、聞き手・話し手ともに、発話にこの間違いが生じたとしても誰も不利益にはならないことから、敢えて指摘して訂正するまでもないと判断したのではないと思われる。またこの結果は、ポライトネスの面からも言及できる点があるように思われる。宇佐美(2001)はポライトネスについて、円滑な人間関係を確立したり維持したりする際に機能する言語的ストラテジーであると述べている。このことから、母語話者同士の会話の場合、話し手の発話の言い間違いを聞き手が明示的に指摘するフィードバックは、人間関係をぎこちなくさせると考えていることが言えるのではないだろうか。

4. 3. 日本語母語話者によるフィードバックの特徴

調査後、8人の協力者にフォローアップ・インタビューをすることができた。フォロー

アップ・インタビューとはどういうもので、どのような場合に用いられるのであろうか。以下は、ネウストプニー(1994)の定義をまとめたものである。

人間は常に自分の行動をモニターし、評価の結果が適切でない場合には、その箇所を訂正している。このプロセスは行動の表面にでないため、録画・録音で記録することができない。フォローアップ・インタビューはその記録を補足するために有効である。また、フォローアップ・インタビューは、調査者の仮説や結論を被験者に知らせ、意見を求めるために用いられる。

このような意義をもったフォローアップ・インタビューを協力者にアンケートの回答を補足してもらうために行った。それによると、フィードバックタイプ3の「相手の間違いに自分も合わせる」について、相手の言い間違いには気づいているが、場の雰囲気を壊さないために「相手に適当に合わせておく」という意見があった。また、聞き返さなくても意図が正確に伝わるならば、適当に合わせておくほうが人間関係を良好に保てるからという意見も聞かれた。

また「何も言わない」を選択した理由としては「意味が通じればそれで良い」「自分も間違ふことはあるので、聞かなかったことにする」「正しい言い方に確信がないときは後で調べたいので、その場では何も言わない」「ただ単に何か言うのが面倒だから」などの意見が寄せられた。

「さり気なく正しい言い方を発話に混ぜ込む」というフィードバックタイプ2は、「親」では一位、「疎」では二位という結果であった。そこで「さり気なく正しい言い方を発話に混ぜ込む」を選択した協力者にその理由を聞いた。「体制に影響がない間違いであれば、相手からはっきりと直されるのは嫌だから」「間違っただけでは、場合によっては恥ずかしい思いをするかも知れないので、自分が気づいても気づかなくても、さり気なく正しい言い方を伝えてもらうのは良い」との答えが返ってきた。また実際に体験した「さり気なく正しい言い方を発話に混ぜ込む」具体的な例を聞いてみた。その例が以下の1から3である。

例1

長年の友達：「このお菓子、宮内庁ごようたつ（御用達）なのよね」

協力者：「宮内庁ごようたし⁶⁾って聞くと、高級な感じがするけどね」

6) 一般的には「ごようたし」だが、「ごようたつ」の読みも『大辞泉』（1995小学館）では容認されている。

例 2

親しい同級生：「あの先生、私たちをいつも一羽（いっば）ひとからげにして話すよね」

協力者：「そうだね、どうして十羽（じゅっぱ）ひとからげなんだろうね」

例 3

部活の仲間：「スケートリンク、やがい（屋外）だっさき」

協力者：「おくがいかあ、寒いよなあ」

5. まとめと今後の課題

今回の調査は調査協力者の年齢層の幅が広く、また限られた人数からもこの結果が必ずしも一般的な日本語母語話者の発話であるとは言及できない。しかし、母語話者の言い間違いの対応に関して、ひとつの方向性が見えたと思われる。それは、親しい間柄であっても母語話者同士は発話相手の言い間違いに対しては、間違いをあからさまに指摘して正答を提示することはないということである。これは日本語学習者には、日本語母語話者との接触場面で訂正行動をする場合、あまり明示的に間違いを指摘することはコミュニケーション上避けたほうが良いという示唆が考えられる。以前筆者は、中国語母語話者が中国語を学習中の日本語母語話者の発音を訂正する場面で「その発音はダメです。中国の人はそのように発音しません。正しくは〇〇です」という発話に遭遇したことがあった。親切心で訂正しようという気持ちは分かるが、こうしたストレート過ぎるフィードバックが、対話者を傷つけるということを知ることが大切であろう。会話全体の流れに支障のない言い間違いであった場合は、さり気なく正しい言い方をして相手に知らせるというフィードバックが比較的好ましいと言えよう。しかし問題は、良くない意味をもった発音であったり、相手を誤解させる言い間違いであったりする場合の訂正方法である。しかしそのような場合であっても「それはダメです」と明示的にフィードバックするのではなく、「その言い方だと、〇〇という意味になりますよ」などと、軽く助言するように伝えるという方法も考えられる。

日本語の教室において、教師は学習者の言い間違いに対して、彼らを傷つけない配慮がもっとも必要であると思われる。教師は、学習者の言い間違いの対応について、学習者との間に信頼関係が築けているかどうか、授業の目的、学習項目の内容、また学習者の性格など様々な要因を十分考慮して行うことが重要である。また、

教師のフィードバックを学習者が模倣して母語話者との接触場面で用いることも十分考えられることから、教師は常に学習者のモデルであることを自覚すべきでもあろう。

今後も、日常的な場面で起こる言い間違いについて引き続き調査を行っていきたい。また、母語話者同士のフィードバックについても、テレビ番組や日常から実例を多く収集して、間違いの種類とフィードバックの種類について調査していきたいと思う。フィードバックの分野は未だ解明されていないことも多く、特に母語話者間のフィードバックについての実証的な研究報告は、知見の限り多くないように思われる。今後は、複数の方向からの調査を行い、その結果から日本語学習者のコミュニケーション上のヒントを得ることを目的としたい。

【参考文献】

- 市川保子(2000)『続・日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 宇佐美まゆみ(2001)「談話のポライトネスーポライトネスの談話理論構想ー」『談話のポライトネス』(第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書)国立国語研究所
- 川崎直子(2005)「第一言語獲得研究における否定的フィードバックの定義ーリキャストの観点からー」『三重大学留学生センター紀要』第7号 69-77頁
- 河村史陽(2004)『大阪ことば事典』講談社学術文庫
- 白畑知彦、富田裕一、村野井仁、若林茂則 (Eds.) (1999) A guide to English Language Teaching Terminology. 大修館書店
- 寺尾 康(2002)『言い間違いはどのようにして起こる?』岩波書店
- 鳥飼浩二(2005)北原保雄編『問題な日本語』大修館書店
- ネウストプニー・J. V. (1994) 日本研究の方法論：データ収集の段階」『待兼山論叢』28 日本語学篇 1-24頁
- 山根 繁(2003)『応用言語学事典』小池生夫編 研究社

謝辞：本稿の成るにあたって、貴重なコメントをくださった査読委員の方方に深く感謝の意を表します。

| |
|-----|
| 要 旨 |
|-----|

In regard to the feedback of speaking errors between Japanese Native Speakers

In any foreign language classes, the errors produced by learners are in everyday sight. It is thought that the learners verify their own usage of language by making errors so as to progress their language acquisition. In other words, producing errors are thought to be a natural process for learners. In contrast, the errors produced by native speakers are thought to be in the failure of language processing.

In this paper, we used questionnaires created based on a list that Japanese native speakers' speaking errors are collected and surveyed 36 volunteers with respect to the expressions in the correct usage and in the real situation. We systematically categorized these native speakers' speaking errors based on this survey. We also surveyed how the native speakers feed back the errors produced in the conversation between the Japanese native speakers.

In this paper, we consider the importance of communication for Japanese learners In regard to the feedback of speaking errors between Japanese native speakers.

| |
|---|
| キーワード： 誤用 言い間違い フィードバック 音位転倒 親疎関係 ポライトネスツ フォローアップ インタビュー |
|---|

| |
|---|
| 투 고 : 2006. 11. 30 1차 심사 : 2006. 12. 9 2차 심사 : 2006. 12. 30 |
|---|

住 所 : (497-0044) 愛知県海部郡蟹江町蟹江新田北百保57-1-201
電 話 : 0567-96-3394
e-mail : nkawa@lilac.ocn.ne.jp